和歌山大学教育学部附属小学校

LIVE創REATOR（らいぶ つくりえいたー）

NO.55
2011年5月
研究広報誌

学びの質の高まりをめざして
～自己の変容へとつながる「吟味」～

CONTENTS

●発刊にあたって「希望としての『子ども』」・・・・・・・・・・・・・・ 1
●本校の研究について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2・3
●教科部紹介・スタッフ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4・5・6・7
●共同研究開発校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

希望としての「子ども」



和歌山大学教育学部附属小学校長　菊川恵三

校庭の桜が吹雪のように舞い散る中、新一年生が入学してきました。毎年繰り返される風景ですが、今年は別の感慨がありました。3 月 11 日発生の東日本大震災。すさまじい津波の映像が、空から屋上から高台から繰り返し放送され、気分が悪くなったのは私だけではなかったはず。

被害状況が次第に明らかになる中で、教育関係者が胸を痛めた一つは、大川小学校（石巻市立）の津波被害でしょう。大きな揺れの後、校庭で点呼をとり、避難を始めようとした矢先、津波が襲ったとのこと。全校児童 107 名のうち、74 数名が死亡もしくは行方不明。教職員も 11 名中、10 名が失われました。関係者の嘆きを思えば、言葉もありません。

先日、この大川小学校の入学式のニュースが流れました。別の学校でおこなわれた式場前に、新しいランドセルを背に照れたような男の子。若いご夫婦が「入学式」の前で、カメラに収めていました。この日、入学したのは 3 人。全校生徒 22 数名の再出発です。小さな 1 年生ですが、「この子たちのために」の言葉がなければ、再び立ち上がるのは難しいでしょう。東北の復興も、この小さな思いの集積によって一歩一歩進んでいくと信じます。

さて、本年度の研究テーマは「学びの質の高まりをめざして―自己の変容へとつながる「吟味」―」です。３年目を迎えるこのテーマで私達が目指していくのは、対象・他者・自己との三位一体の対話のなかで生成される学びを通して児童の成長を見とどけることです。このテーマをめぐり、自らの実践を通して深めていった軌跡がサブテーマに現れています。

一昨年の「課題に向う対話を深める」、昨年の「「吟味を生み出す対話」をつくる」、そして今年の「自己の変容へとつながる「吟味」」がそれです。対話がそれにふさわしい課題の発見や反省に立っているか、から始まり、対話そのものがふさわしい根拠や相互の検討という「吟味」を生み出しているかを問い、本年度はその「吟味」が最終目的である自己の変容へとつながっているか改めて問いかけます。このような大きなテーマを支えるものとして、「小グループによる協同的な学び」など４つの視点を大切にしていきたいと考えています。

６月の複式授業研究、７月の夏季研修会、そして 11 月には東大の秋田先生を招いての教育研究発表会、さらには昨年度実施しなかったＩＣＴ活用授業研究も予定しています。どうか多くの先生方のご参加をいただき、私どもへのご意見ご批判をお寄せください。そのような切磋琢磨が、回りまわって東北の子どもたち、未来を担う子どもたちへの力になることを信じています。

本校の研究について

★本年度の研究テーマ

学びの質の高まりをめざして
～自己の変容へとつながる「吟味」～



研究主任
須佐　宏



本校では，2007 年度より「**学びの質の高まりをめざして**」という研究テーマのもと，「学び」を対象・他者・自己と対話することで熟成される三位一体の活動であると考え，実践を重ねてきました。そして，一昨年度の研究発表会において秋田喜代美先生（東京大学大学院）からご指摘のあった「言葉の吟味・考えの吟味」の弱さを克服し，子どもたちの学びの質をよりいっそう高めていくため，「吟味を生み出す対話」をつくるというサブテーマを設けて研究を進めてきました。秋の研究発表会では，「吟味を生み出す対話」をつくり，学びの質を高めていくためのポイントとして，

Ⅰ「学びの質の高まり」を支えるものとして示した“5つのもの”が概ね満たされるような授業づくりをしていくこと。
Ⅱ子どもたち一人ひとりが同じ土俵で，同じ視点にたって，理由や根拠を話し合えるようにすること。（＝課題の焦点化）

の２つを示しました。



Ⅰに挙げた「学びの質の高まり」を支える５つのもの（みとりと支援の充実･過程を重視したプロジェクト型学習・協同的な学び・自己の課題・聴き合い，学び合える「学級風土」）を明示したことにより，それぞれの授業者がこの５つを意識した実践を展開し，そのことによって，教師自身が自己の実践の弱点に気づき始めることができました。また，研究発表会にご参会いただいた先生方から，聴き合い，学び合う子どもたちの姿について，「話したくて聴きたくて仕方のない子どもたちが十分育っているなと感じた。」「子どもが互いの話をよく聴く姿が随所にあふれている授業だった。」などの評価をいただくことができ，質の高い学びを実現していく上で母体となる学級集団が，「聴き合い，学び合える学級風土」であることの重要性を改めて確かめることができました。その一方で，「より効果的な“協同的な学びのあり方”について明らかにしていく。」という課題が見えてきました。

また，Ⅱで示した「同じ土俵で」「同じ視点で」ということを意識してきたことで「焦点化における異なる２つのアプローチ」があることも見えてきました。

本年度は，研究テーマ「学びの質の高まりをめざして」の最終年度と位置づけ、見えてきた課題を克服し,質の高い学びを実現していくために、「～自己の変容へとつながる「吟味」～」というサブテーマを掲げ、

（１）聴き合い，学び合える「学級風土」づくりの共有化を図る
（２）協同的な学びのあり方を探る
（３）焦点化における２つのアプローチ
（４）三位一体の対話を進める

の４つの点についてさらなる提案をしていきます。今年度予定している研修会・研究会の案内を次頁に掲載させていただきます。ぜひ和歌山大学教育学部附属小学校へ足をお運び下さい。

研修会ならびに研究会のご案内

第 11 回複式授業研究会

◆2011 年 6 月 17 日(金)10 時 40 分～16 時 30 分

お申し込みは、web(http://www.aes.wakayama-u.ac.jp)または、FAX(073-43-6470 まで)

夏 季 領 域 別 研 修 会

◆1 日目:2011 年 7 月 28 日(木)

《午前の部:9 時 30 分～12 時 00 分》

教科･領域:理科･算数･生活･音楽･体育

《午後の部:13 時 30 分～16 時 00 分》

教科･領域:理科･社会･複式

◆2日目:2011 年 7 月 29 日(金)

《午前の部:9 時 30 分～12 時 00 分》

教科･領域:国語･家庭･総合

《午後の部:13 時 30 分～16 時 00 分》

教科･領域:国語･外国語･学校保健

※夏季研修会での研修内容，お申し込みは，次号にて詳細お伝えします。
また，本校ホームページでも随時情報を提供していきます。

平成 23 年度教育研究発表会

◆2011 年 11 月 5 日(土)

単式学級･複式学級あわせて全 23 授業を公開致します。

講演　秋田喜代美先生(東京大学大学院教授)

ＩＣＴ活用授業公開研修会開催決定！

※昨年度実施しなかったＩＣＴ活用授業研究会には、多数のお問い合わせをいただきありがとうございました。今年度は、「ＩＣＴ活用授業公開研修会」として、１月 27 日（金）に開催させていただくことになりました。詳細は、後日本校ホームページにてご案内いたします。

教科部★紹介

国語科部　「発想力」「論理力」「表現力」を育てる

～言葉と言葉・文と文のつながりを意識した自己内対話によって～



湯浅　明菜　須佐　宏　中田　郁子

今年度国語科部では，子どもたちが，自己の変容を認識できる具体的な手立てとしての評価等を研究していきます。また，国語科学習における課題に応じた協同的な学びのあり方と，質の高い学びへとつながる焦点化についても，実践研究を進めていきます。

子どもたちが、仲間と共に言葉や文をくわしく吟味していくなかで、「発想力」「論理力」「表現力」をつけていくことができる授業をめざしていきます。

生活科部　「ふれる・かんじる・たのしむ・いかす」

～子どもの気付きの質を高める生活科～



藤原　ゆうこ　居澤　結美
神山　求実　笠原　彩
南出　苗央　大平　陽子

「学習したことを自然と実生活にいかすことができる」が生活科部の目指す子ども像と考えます。そのために，様々な体験からたくさんの“気付き”を子どもたちがもち，「“気付き”の質」を高めることができるように，子ども一人ひとりをみとり，個に応じた支援を取り入れます。また繰り返す・比べる・更新するなどの活動を組み入れることで，科学的な見方・考え方の基礎を育みたいと考えています。また、今年度も，生活科と各教科・領域との合科カリキュラムを構築し，合科学習（主に図画工作科）のあり方を考え，実践していきます。今年度で４年目となる“和み”カリキュラムを引き続き，実施します。

音楽科部　「比べる」ことでせまる音楽の魅力

～思いや意図をもって表現できる子どもに～（3年次）



江田　司・田辺麻衣子

音楽科では，
子どもたちが質の高い音楽的な力を身に付けるために
「比べる」をキーワードに
表現及び鑑賞の楽しい活動を通して，音楽の魅力にせまります。

思いや意図をもって表現できる子どもに育てるために，

①表現と鑑賞の活動において，「比べる」学習の筋道を明らかにします。

②集中して聴く活動から，言葉などで感じ取ったことを表せられるようにします。

③課題を焦点化することで，対象をより深く理解できるようにします。

楽しみながら学びの質が高まることをめざします。

教科部★紹介

算数科部　子どもがつなげる算数科学習
～互いの考えによりそいながら～



土岐哲也　宇田智津　市川哲哉

算数科では，算数的活動を取り入れた学習を通し，子どもたちが互いに「つなげる」学習をめざして取り組んできています。子どもたちは自分の考えを具体物を用いたり操作したり，式や答え，絵や図を使って自分の考えを表現します。自分の考えを友達にわかりやすく伝えようとすることで，自分の考えの根拠を明らかにしようとします。また，自分の考えと同じところや異なるところに着目しながら友達の考えを聴くことで，なぜそのように考えたのかを予想するようになります。互いの考えによりそいながら予想し，共感し，比較しながら検討していくことで学びの質が高まっていくと考えます。

夏季公開研修会・教育研究発表会等で，日頃の実践を交流できればと思います。よろしくお願いします。

社会科部　一人ひとりの学びの充実をめざして
～ ひとり学習を全体学習の場面へ ～



松尾 光孝　　梶本 久子

社会科では，全体学習の中で友だちの考えを聞き，自分の考えや思いを出し合う中での“学びの質の高まり” を目指しています。より深まる全体学習につなげるためには，ひとり学習の充実を大切にしたいと考えています。昨今，社会的事象は複雑化し，「ひと・もの・こと」に関する価値観も大きく変化しています。

社会の問題を自分にかかわりのあるものとして受け止め，一人ひとりがこだわりをもって追究していく学習をすすめていくことが大切です。

今年度も，子どもたちの対話によって個の「問い」「こだわり」を追求し深めていくことを大切にしていきたいと思います。よろしくお願いします。

理科部　自然事象の本質をさぐる理科の学び



辻本 和孝・馬場 敦義・西村 文成・中西 大

私たちが目にする自然事象は，さまざまな現象がさまざまな状態で絡み合いながら表れています。自然事象の“本質をさぐる”ことは，その絡みから課題とする対象の意味を読み解く学びです。また，本質にたどりつく過程において，背後にある事象や関連づけられる事象についても意識してさぐることが，新たな発見や気づきにつながり，学びの質が高められると考えています。

理科部では，７月の夏季教科等別研修会や１１月の教育研究発表会で積極的に情報発信していきます。

教科部★紹介

体育科（学校保健）部



嶌村誉子　　渡辺　圭　　谷口佳都司

体育科　仲間とのかかわりから，自己課題に向けて学び続ける子どもを育てる体育学習

運動に親しむ姿勢を育てるためには，運動の特性に触れさせることや，仲間とかかわる楽しさを味わわせることが大切だと考えています。そして，子どもが自己課題に向けてどのような学びをするのか，その過程に重点を置いた体育学習の研究をしていきます。

学校保健

子どもたちが自分の健康に関心を持ち，理解を深めるとともに，仲間や集団の健康についても考える力を育んでいきます。学級担任と連携のもと，保健指導の研究を進めていきます。

家庭科部　生活力を育む家庭科学習

～体験的活動の言語化から生活の実践へつなげて～



中西　正子

家庭科学習では、製作実習、調理実習、比較実験等の体験的活動の積み重ねを大切にしています。今年度はこのような体験的活動を計画したり、予想したり、実践したり、振り返ったり等の活動を、言葉にこだわりながら子どもの思考をひろげていきます。そして、こだわりや自分の思いをもって生活への実践へとつなげてほしいとねがっています。子どもが将来にわたって、自分自身や家族の生活をより豊かに、より楽しく、より快適なものにできるような力を育んでいくことをめざして、取り組んでいきます。

異文化コミュニケーションを積極的に取ろうとする子どもを育てる外国語活動



辻　伸幸

いよいよ，外国語活動が小学校教育課程の必修領域として全国で始まる歴史的な年です。外国語活動は，教育課程全体からは，ほんのわずかな量でしかありません。しかし，21 世紀を生きる子どもたちの教育にとって，欠かせないスパイスです。スパイスが味を引き立てるのです。

本年度の外国語活動で大切にしていきたいのは「コミュニケーション能力の素地づくり」です。外国語活動ですので，英語が中心となりますが，異言語はもちろんのこと国，地域，世代，性別なども異文化として捉え，コミュニケーションを進んで取ろうとするような子どもになって欲しいと願っています。

また，自分たちの地域や国のことについても理解しながら，コミュニケーションが取れるようにと思っています。さらに，外国語活動で完結するのではなく，総合的な学習の時間を有効に関連させて学びの質を充実したものにしていきたいと思います。

教科部★紹介

総合部（CHANGE）　探究する学びを創る

～多様な視点で考える子ども～



矢出　大介

本年度の総合部のキーワードは、思考の過程の可視化です。子どもたちが思いや考えの足跡をみえる形で表現するということです。子どもにとって可視化とは、自分の思いや考えを言葉，表や図で表すということだけではありません。探究する学びを創るためには，それらをもとに自らが取り組む課題に対して様々な調べ学習や友だちの考えなどをふまえた多面的な考察が必要なのです。その中で、友達の思いを推し量り、課題を理解することをきっかけに自らの在り方をも見つめなおすことを願っています。

サブタイトルを「多様な視点で考える子ども」にした理由は、こだわりをもって学んでいく中にも多様な視点をもって対象にどっぷりとかかわることで，その価値や真理にたどりつくことができると考えたからです。多様な視点を子どもたちの中に生み出す手だてやしかけとして、子どもの「こうしたい」「もっとこうしたい」を大切にします。

複式教育部

主体的に学び合う複式教育
～自己の変容を認識できる板書や記録の工夫 ～



三上祐佳里・北川勝則・西村文成

複式学級だからこそできる，ペア・グループ・異学年交流といったさまざまな学習形態を工夫し，少ない人数の中で共に学び生活する個人と個人のかかわりを重視ししながら主体的に学び合う複式教育をめざします。

今年度は，自分たちで司会をして，板書も行うという複式学級の特性を生かして自己の変容を認識できる手立てを考えます。具体的には，自分たちで記録していく板書を，その時間の自分たちの「可視化された学びの軌跡」と捉え，そこから自己の変容が認識できるような手立てを研究していきます。

STAFF

校　長	菊川　恵三	副校長	沖　香寿美	校内教頭	西村　充司
1　A	中田　郁子	1　B	市川　哲哉	1　C	居澤　結美
2　A	谷口佳都司	2　B	宇田　智津	2　C	藤原ゆうこ
3　A	矢出　大介	3　B	中西　　大	3　C	須佐　　宏
4　A	梶本　久子	4　B	渡辺　　圭	4　C	馬場　敦義
5　A	松尾　光孝	5　B	湯浅　明菜	5　C	土岐　哲也
6　A	辻本　和孝	6　B	田辺麻衣子	6　C	辻　　伸幸
1・2F	三上祐佳里	3・4F	北川　勝則	5・6F	西村　文成
音楽専科	江田　　司	栄　養	神山　求実	養　護	嶌村　誉子
家庭専科	中西　正子				
講　師	笠原　　彩（図工専科）		南出　苗央（図工専科）		
非常勤講師	伊澤　亜紗（養護）		糸川　良夫（理科）		中井　彩江（理科）
	福田　亞唯（体育）		大平　陽子（生活・支援）		
	北川　千晶（図書館司書）		佐原ちづよ(書写)		高瀬　優佳（音楽）
	Ernie Wakefield Elliott		Paul William Hetherington		

共同研究開発校・スタッフ

共同研究開発校

教科等	学　校　名	校　長	学　校　名	校　長
国 語	和歌山市立　新南小学校	桂木　道雄　校長	和歌山市立　浜宮小学校	西端　幸信　校長
	和歌山市立　高松小学校	川端　良幸　校長	和歌山市立　加太小学校	堀　　優子　校長
	和歌山市立　太田小学校	岩西　啓子　校長		
社 会	和歌山市立　雄湊小学校	福田　光男　校長	和歌山市立　雑賀小学校	小松　龍三　校長
算 数	和歌山市立　吹上小学校	井谷　正人　校長	和歌山市立　大新小学校	北原　博男　校長
理 科	和歌山市立　宮北小学校	鎌田　淳一　校長	和歌山市立　八幡台小学校	岡　　正人　校長
	和歌山市立　城北小学校	山本　昭広　校長		
生 活	和歌山市立　雄湊小学校	福田　光男　校長	和歌山市立　宮北小学校	鎌田　淳一　校長
	和歌山市立　松江小学校	亀位　直規　校長		
音 楽	和歌山市立　木本小学校	池田　三明　校長	和歌山市立　吹上小学校	井谷　正人　校長
家 庭	和歌山市立　宮前小学校	高橋　量也　校長	紀の川市立　田中小学校	辻　　久夫　校長
体 育	和歌山市立　中之島小学校	横瀬　　勤　校長	和歌山市立　野崎西小学校	宮本　博信　校長
総 合	和歌山市立　有功東小学校	宮本　　茂　校長	太 地 町 立　太地小学校	坂本　善光　校長
外国語活動	和歌山市立　芦原小学校	高　　善昭　校長		
複 式	田 辺 市 立　長野小学校	小山　敏幸　校長	田 辺 市 立　富里小学校	森田　春樹　校長

From Editors

『らいぶ・創りえいたー』も 11 年目を迎えました。「生き生きと本物を創り出すひと」という意味を込めています。

本校ホームページにはカラー版を掲載しています。ご意見・ご感想をお寄せ下されば幸いです。

編集委員：三上、松尾、中田、矢出、藤原





和歌山大学教育学部附属小学校

〒640-8137　和歌山市吹上１丁目４番１号

TEL　（０７３）４２２－６１０５

FAX　（０７３）４３６－６４７０

URL　http://www.aes.wakayama-u.ac.jp

Ｅ－mail　fuzoku@center.wakayama-u.ac.jp